

第62回建築士会全国大会北海道大会に参加して

2020年4月26日 東 二郎

これまで建築士会の全国大会に出席したのは、栃木大会と埼玉大会の2回でしたが、今回開催地が北海道であるにも拘らず参加を決めたのは、二十歳の時に道内を二週間旅行したなつかしさと実は三年前に幼稚園園舎見学を兼ねた旅行で訪れていたがそれ以外は訪れていなかった事と、前県央支部長の原さんが表彰を受けるという事で、一緒に祝いたいとの気持ちがあり、交通の手配は現県央支部長の西方さんに手配頂き参加致しました。

会場「函館アリーナ」への到着は、記念講演途中になりましたので、防災まちづくりセッションには参加できなかったことを反省した次第です。

式典では、日本建築士会連合会三井所会長挨拶の後、連合会会長表彰、伝統的技能表彰、連合会作品表彰がありましたが、連合会作品表彰の「アマダ記念会館」は伊勢原市にあり、身近な隣町なので、ぜひ会員の見学企画に入れたいと思いました。

式典の後、今回全国大会に参加された神奈川県建築士会の仲間（約30名）と会場玄関前で集合写真を撮りました。

夕方から函館アリーナ2階にて「大交流会」が催されましたが、その会場で福井県建築士会の一員（今年度より副会長就任）で来ていた大学の同級生に会いました。お互いに建築士会に入っていることも知らず、このような場所で会った事は大変うれしくその仲間の方ともお話をさせていただきました。



この交流会の後、西方さんと「函館山夜景バスツアー」に参加したのですが、同級生とは、同じバスになりましてまたまたご縁を感じた次第です。

函館の夜景は、私の家族が以前旅行した時に見に行ったそうですが、天候が悪くきれいな夜景を見る事が出来なかったそうですが、今回私は運よく見る事が出来函館に来た甲斐がありました。

翌9月22日のエクスカージョンは、『日本遺産「江差いにしえ街道」散策コース』に参加致しました。

主な見学地、施設は以下の通りです。

1. 道の駅江差

1993年4月22日に「道の駅江差」として登録され、2019年4月20日にリニューアルオープンされたそうです。全国道の駅の中で建築面積は最小で、売店施設が13.7㎡、トイレが73.7㎡、合計87.4㎡の施設です。

役所のリノベーション用の平成30年度予算が約200万円でしたので、賄い切れないとこ

ろをクラウドファンディングによる資金調達の結果274万円の寄付を頂いたそうです。

2. 開陽丸記念館

開陽丸は、幕末にオランダで建造された幕府軍艦であったが、戊辰戦争中に榎本武揚らを乗せ活躍したが、暴風雪のため、明治元年（1868年）江差沖にて座礁沈没した。

現在の施設は、オランダに残っていた設計図をもとに復元されたそうです。

内部には、沈没した船内から引き揚げられた遺物の約3,000点が展示されていました。



3. 旧中村家住宅（国指定重要文化財）

お昼前の訪問施設になりましたが、今回の江差町バスツアーで一番印象に残った「いにしえ街道」にある旧中村家では、十分時間を取っていただき、説明を聞きながらの見学でニシン漁による繁栄を映した写真も見ることが出来ました。

中歌町に残されている旧中村家は、江戸時代から日本海海岸の漁家を相手に海産物の仲買商を営んでいた近江商人の大橋宇兵衛が建てたものです。

家屋の特徴は、通り庭様式で母屋から浜側まで文庫倉、下の倉、はね出しまで続いています。当時の問屋建築の代表的なつくりとなっています。





4. 江差追分会館・江差山車会館

「江差追分」は北国の厳しい自然と生活の中から生まれた人間讃歌であり、先人から引き継いだ、この地方文化の華を正しく保存伝承するため、昭和57年に町民や追分

愛好者の厚意によって「江差追分会館」が建設されたそうです。

江差山車会館では、北海道最古の歴史と伝統を有する「姥神大神宮渡御祭」で使用される13台の山車の内2台を一年交代で常設展示していました。



5. 江差いにしえ街道

江差は、明治初期まで北前船によるニシン漁とその取引と檜材交易で栄えた街で、その隆盛を極めた建造物（問屋蔵・商家・町屋・社寺）が海岸線沿いの下町に多く残されていました。

江差町では、この歴史的建造物を後世に伝え、かつ多くの人に見て頂こうと、平成元年から「歴史を生かすまちづくり事業」をスタートさせ、平成16年11月に街路事業が完了しました。

街並みを歩きながら、その当時の風情を残す事の意味を感じながら、長野県小布施の取り組みも同時に思い浮かびました。





